

令和5年度 学校経営全体構想

五所川原市立栄小学校

「楽しさのある学校」

【方針】

子どもにとって学校は楽しい場所ではないといけない。そしてそれを土台として、学習や生活面の成長を促していけると考える。

そこで、「登校してよかった」、「今日も何かある」といった学校への期待度を上げることで、児童の登校動機を高めるとともに、一人一人の児童が学校生活の中に様々な楽しさを感じられるようにしたい。「楽しさ」とは、いわゆる遊びの楽しさだけではなく、発見、困難、協働、創造、賞賛等、様々な場面に存在するものであり、その場面設定とともに子どもに気付かせることも私たち教職員の責務である。

指導の重点（教職員の資質・能力向上のために）

- ◆複数の登校動機をもたせる
- ◆児童への言葉遣い（敬称）
- ◆ICT機器のスキルアップ

〈教育目標〉 「自分の未来を主体的に切り拓いていく子どもの育成」

- 学び合う子
- 思いやりのある子
- たくましい子

〈目指す学校像〉

◇楽しみや喜びのある学校

複数の登校動機

◇子どもを伸ばす学校

◇家庭や地域から信頼される学校

◇安心・安全な学校

〈努力目標〉※目指す子ども像

◇進んで表現し、ともに学ぶ子に育てる

◇相手を思いやりよく考えて行動する子に育てる

◇めあてをもって健康づくりにはげむ子に育てる

〈目指す教師像〉

◇子どもの心に寄り添う教師

◇常に学び続ける教師

◇保護者・地域から信頼される教師

児童への言葉遣い

◇コンプライアンス意識が高い教師

【教育課題】

(1) 確かな学力の定着・向上

『進んで学び合い、確かな学力を身に付けた子に育てる』

(2) 豊かな心の育成

『自己肯定感を高め、思いやりがあり、正しく判断して行動する子に育てる』

(3) たくましい心と体の育成

『生活リズムを整え、進んで健康づくりをする子に育てる』

【8つの柱】

〈確かな学力の育成〉

- ◇「主体的・対話的で深い学び」への授業改善
- ◇基礎・基本習得と活用
- ◇協働的に学びに向かう集団づくり
- ◇ICT機器の適切な活用

教師のスキルアップ

〈豊かな心の育成〉

- ◇道徳の授業における指導方法の質的変換
- ◇心に響くあいさつ
- ◇生命尊重の態度育成
- ◇キャリア教育の推進（ふるさとへの愛）

〈健やかな体の育成〉

- ◇体力づくりの推進
- ◇教科体育の工夫
- ◇基本的な生活習慣の確立
- ◇望ましい食習慣の啓発

〈生徒指導の充実〉

- ◇家庭・地域と連携した規範意識の醸成
- ◇多面的な情報に基づいた児童理解
- ◇全職員による組織的・協働的な指導体制の推進

〈いじめへの対応〉

- ◇未然防止・早期発見
- ◇積極的・組織的な危機管理体制の確立
- ◇双方の児童と保護者に寄り添った対応
- ◇日常の諸問題を自ら解決する態度の育成

〈特別支援教育の充実〉

- ◇要支援児童の把握と実態に応じた支援
- ◇校内支援体制の充実
- ◇教育的ニーズに応じた適切な支援
- ◇家庭や関係機関と連携した支援体制の充実

〈開かれた学校〉

- ◇家庭・地域との連携
- ◇家庭や地域の願いをふまえた教育課程の実施
- ◇積極的な情報発信
- ◇幼保こ小連携・小中連携（学区研）の推進

〈教職員の資質能力向上〉

- ◇教育公務員としての責務の自覚
- ◇今日的な教育課題への取り組み
- ◇組織的・継続的な校内研究の推進

【すべての土台としたい考え】

- ◆教職員の共通理解のもと、組織的・協働的・機動的に教育活動を展開する。
- ◆行事や活動の意義・ねらいを明確に示し、目的意識をもたせながら参加させる。
- ◆「あじみこし（ろ）」の徹底により規律ある人間関係と学校生活を築く。
- ◆新型コロナウイルス感染症への迅速かつきめ細かな対応（校内感染対策、家庭の協力、学力保障等）
- ◆自己存在感・充実感・絆づくりのための「場所づくり」（令和4・5年度県教委指定事業）